「百人一首の桜の歌を味わおう」　　２年(　)組(　)番　名前(　　)

＜６首の共通点＞

9 番 **花の色は　移りにけりな　いたづらに わが身世（みよ）にふる　ながめせし間に** 桜の花の色は、はかなくあせてしまったなあ、春の長雨が降っている間に。同じように私の容姿も衰えてしまった、むなしくもの思いにふけっている間に。 小野小町（おののこまち。生没年未詳、820 年～870 年頃。）	＜相違点＞歌の情景(季節、場所など)、歌の背景、歌人の思い
33 番 **久かたの　光のどけき　春の日に　しづ心なく　花の散るらむ** 日の光がのどかにさしている春の日に、どうして桜の花は落ち着いた心もなく、はらはらと散り急ぐのだろう。 紀友則（きのとものり。 ８４５？～905 年頃)	＜相違点＞歌の情景(季節、場所など)、歌の背景、歌人の思い
61 番 **いにしへの　奈良の都の　八重（やへ）桜　けふ九重（ここのへ）に　にほひぬるかな** その昔、奈良の都で咲いた八重桜が、今日は九重の宮中で、いっそう美しく咲き誇っております。 伊勢大輔（いせのたいふ。 ９９０年～１０７０年頃)	＜相違点＞歌の情景(季節、場所など)、歌の背景、歌人の思い

66 番 **もろともに　あはれと思へ　山桜　花よりほかに　知る人もなし** 私がお前をなつかしく思うように、お前も私をなつかしく思っておくれ、山桜よ。この山奥ではお前以外に、私の心を分かってくれる友はいないのだから。 前大僧正行尊（さきのだいそうじょうぎょうそん。 1055 年～1135 年）	＜相違点＞歌の情景(季節、場所など)、歌の背景、歌人の思い
73 番 **高砂（たかさご）の　尾のへの桜　咲きにけり 外山（とやま）の霞（かすみ）　立たずもあらなむ** 遠く高い山の峰の桜も美しく咲いたことだ。人里近くにある山の霞よ、どうか立たずにいておくれ。あの美しい桜がかすんでしまわないように。 権中納言匡房（ごんちゅうなごんまさふさ。1041 年～1111 年。）	＜相違点＞歌の情景(季節、場所など)、歌の背景、歌人の思い
96 番 **花さそふ　あらしの庭の　雪ならで　ふりゆくものは　わが身なりけり** 桜の花を誘って散らす嵐の吹く庭の、まるで雪のように降ってゆくものは、実は老いて古（ふ）りゆくわが身なのだなあ。 入道前太政大臣（にゅうどうさきのだいじょうだいじん。 1171 年～1244 年）	＜相違点＞歌の情景(季節、場所など)、歌の背景、歌人の思い